

# 現職教員の新たな免許状取得 を促進する講習等開発事業

～ 自律的なオンライン講習のカリキュラムデザイン  
と教えないで学べる学習環境の設計 ～

岐阜女子大学

# 小中連携教育、小中一貫教育が進められてきた背景

- 近年の教育内容の量的・質的充実への対応
- 児童生徒の発達の早期化等に関わる現象
- 中学校進学時の不登校、いじめ等の急増など、「中1ギャップ」への対応

## そのためには

小・中学校が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続をめざす様々な教育

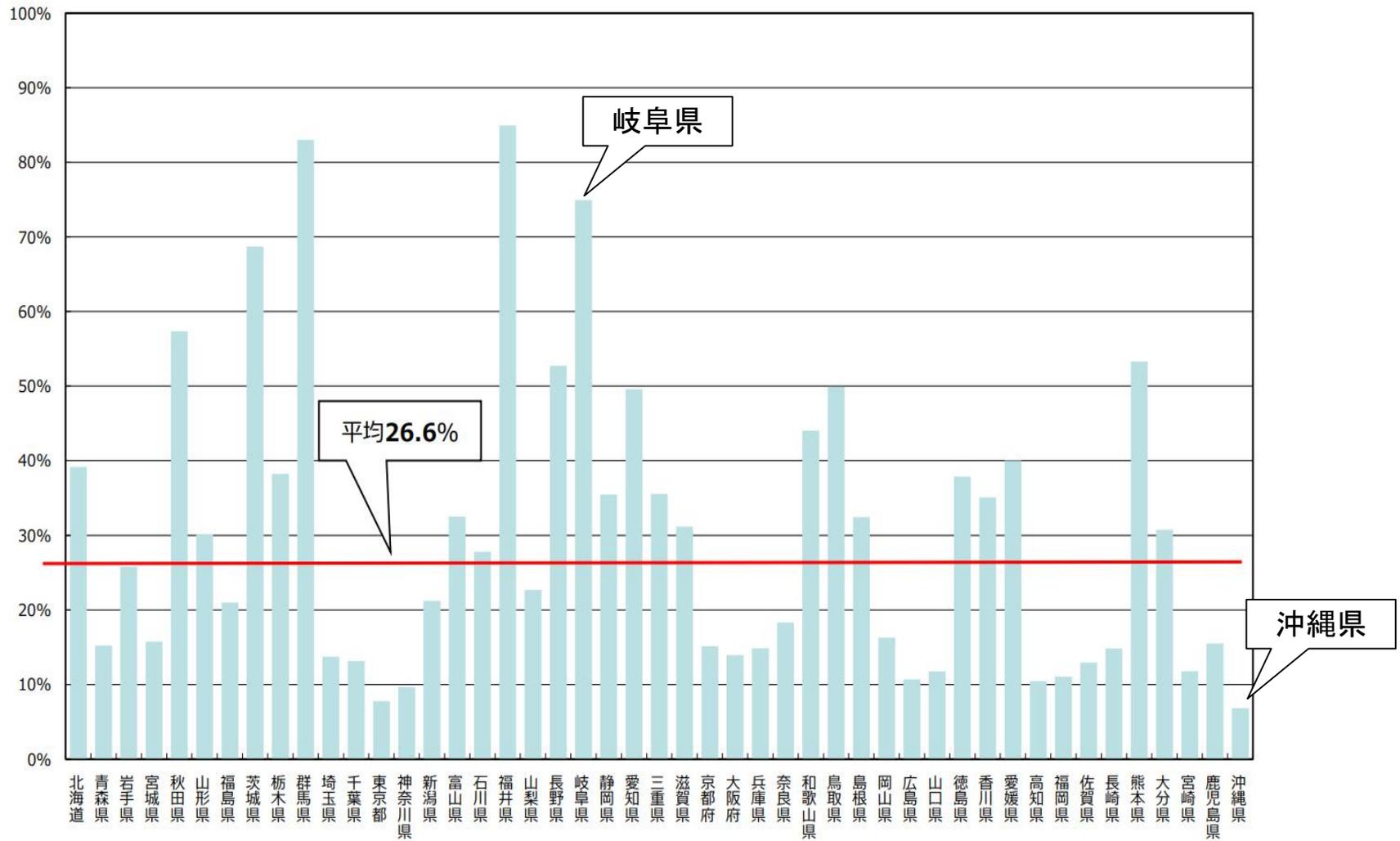
## 具体的には

- 小・中学校の両免許取得の推奨
- 教職員の年齢が若い段階で異校種において勤務する経験

# 小中連携コーディネータに求められる資質

- 複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づいた総合的な指導力を持った人材
- 教育DX（Digital Transformation）は、教員がオンライン技術を活用して、学びのあり方やカリキュラムを革新し、同時に、業務や組織、プロセス、学校文化の変革など、時代の変化に対応した教育ができる人材

# 中学校で勤務している教員に 占める小学校教諭の免許を併有している者の割合

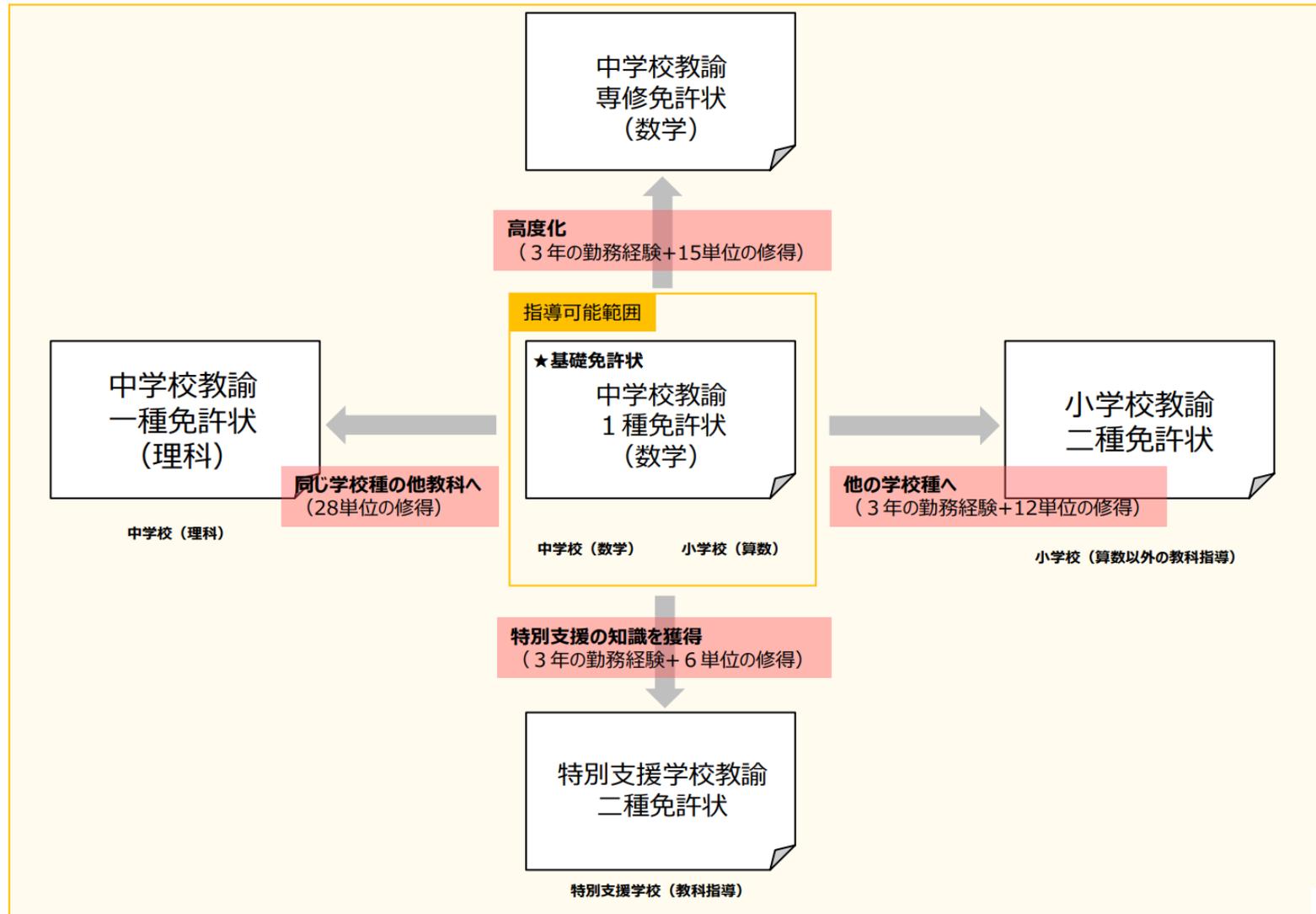


(平成28年度学校教員統計調査より教育人材政策課作成)

# 令和の日本型学校教育の構築

## 基礎となる免許状をもとにした新たな免許状の取得

IV-7



# 現職教員が隣接校種の免許状取得に必要な要件

## ②現職教員 現職教員が隣接校種の免許状取得に必要な要件の弾力化（別表8）

在職年数を踏まえて他校種の免許を取得する際は、法律上、現在保有している免許状の在職年数のみ換算することとされているが、例えば中学校免許状を保有する教員が小学校に専科教員として配置勤務している実態も増えているため、取得しようとする免許状の勤務年数も参入することとしてはどうか。（地方分権提案）

取得希望免許状の種類 免許状取得に必要な要件		小学校教諭2種免許状		中学校教諭2種免許状	
		幼稚園教諭 普通免許状	中学校教諭普通 免許状	小学校教諭普通 免許状	高等学校教諭普 通免許状
有することが必要な教員免許状					
有することが必要な教員免許状を取得した後、 <b>当該学校における教諭等として良好な勤務成績で 勤務した最低在職年数</b>		3年 ←		取得しようとする学校種での勤務 年数も算入できるようにする 【教育職員免許法改正】	
必要 修得 単 位 数	教科に関する専門的事項に関する科目			10(5)	
	各教科の指導法に関する科目	10(5)	10(5)	2(1)	2(1)
	道徳の理論及び指導法	1(1)			1(1)
	生徒指導の理論及び方法				
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	2(1)	2(1)	2(1)	2(1)
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法				
	大学が独自に設定する科目				4(2)
合計		13(7)	12(6)	14(7)	9(5)

※普通免許状とは、1種免許状、2種免許状又は専修免許状を指す。黒字は必要修得単位数を表す。

※最低在職年数に加えて、取得を希望する免許状に応じた学校での勤務経験がある場合、必要修得単位数を1年につき3単位減じることができる（必要修得単位数の半数を限度）。赤字は必要修得単位数の半数まで減じた場合の取得単位数。

【例】中学校教諭普通免許状を取得して中学校で教諭として3年勤務、その後小学校において専科担任として2年勤務した場合、小学校教諭2種免許状取得のために必要な単位数は6単位。

# これからの新たな学びの創造

## 新たな学びを実現するきめ細かな指導（イメージ）

I-4

### 学習指導の充実

#### 《個に応じた指導の充実》

- ✓ 学習履歴（スタディ・ログ）等の教育データを多面的に把握
- ✓ センシング技術（発話量・視線等のデータ収集）で子供の状況を客観的・継続的に把握
- ✓ オンライン学習システム（CBTシステム）等を通じ学習の進捗状況・指導の改善点を把握

- ①個々の子供の知識・技能等に関する学習計画の作成、  
②データに基づく最適な教材の提供等により、  
一人一人の興味・関心や学習進度・学習到達度（つまずきの状況）に応じた指導に生かす  
状況に応じ、学年や学校段階を超えた学び・学び直しを含め補足的・発展的な学習指導を実施



#### 《教育的ニーズに応じた指導の充実》

##### □ 障害のある子供

- 個々の障害の特性等に応じ、音声読み上げ・ルビ振り等の機能を持つデジタル教材を活用するなど、個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づく指導を充実

##### □ 不登校・病気療養中の子供

- ICT・遠隔技術の活用による自宅や病室等と繋いだ学習を充実



#### 《協動的な学びの充実》

- 意見・回答の即時共有を通じた効果的な協働学習、討論や発表等の学習活動・機会の増加等により、協動的な学びを充実



- ICT・遠隔技術を活用した地域社会学習や海外交流学习を充実

#### 《緊急時の学びの保障》

- ICT・遠隔技術を活用した同時双方向型オンライン指導を実施

※画面を通して  
大人数の状況把握は困難



### 生徒指導の充実、保護者との連携強化

- 日常所見・健康観察情報・保健室利用情報等の学校生活上のデータ、健康診断情報等を多面的に把握し、丁寧に対応することで、個々の子供が抱える問題を早期発見・解決

※SC・SSW、学校医等と連携

- 教育データを活用し、子供の抱える問題について家庭とより緊密な連携を図りつつ丁寧に対応

#### 《取組例》

##### 大阪市・児童生徒ボード

- 教員が児童生徒の状況を多面的に確認
- ⇒ 状況を迅速に把握し、きめ細かく指導
- 学校全体で問題を早期発見、迅速に対応



# 令和の日本型学校教育の構築

## 中央教育審議会初等中等教育分科会「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)のポイント

I-9

～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～【令和3年1月26日 中央教育審議会】

### 2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型学校教育」で目指す学びの姿

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。

#### ① 個別最適な学び（「個に応じた指導」（指導の個別化と学習の個性化）を学習者の視点から整理した概念）

- ◆ 「個別最適な学び」が進められるよう、これまで以上に子供の成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえてきめ細かく指導・支援することや、子供が自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することができるよう促していくことが求められる
- ◆ その際、ICTの活用により、学習履歴（スタディ・ログ）や生徒指導上のデータ、健康診断情報等を利活用することや、教師の負担を軽減することが重要

#### ② 協働的な学び

- ◆ 「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるよう、必要な資質・能力を育成する「協働的な学び」を充実することも重要
- ◆ 集団の中で個が埋没してしまうことのないよう、一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせさり、よりよい学びを生み出す

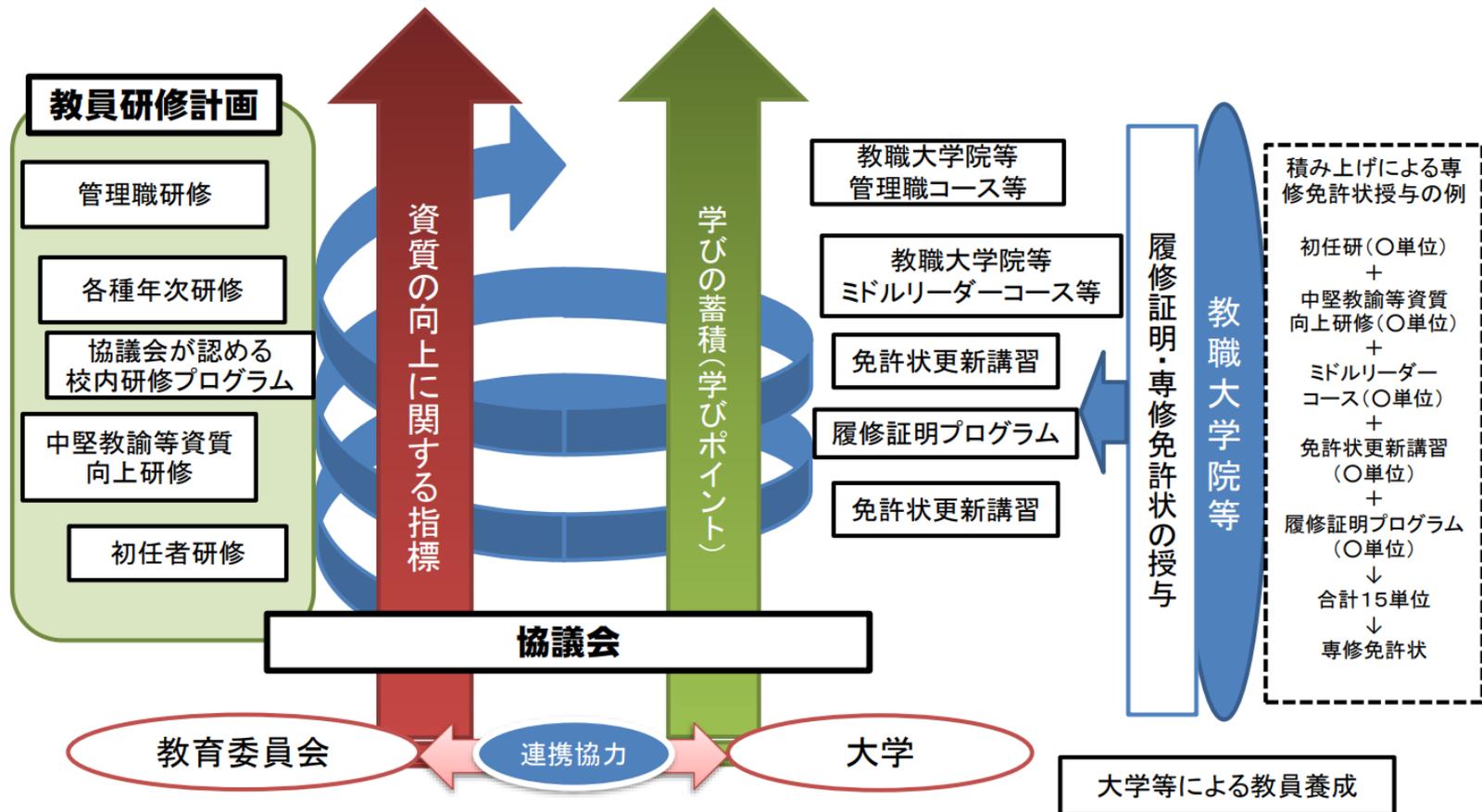
### 「令和の日本型学校教育」の構築に向けた今後の方向性

- これまで日本型学校教育が果たしてきた、①学習機会と学力の保障、②社会の形成者としての全人的な発達・成長の保障、③安全安心な居場所・セーフティネットとしての身体的、精神的な健康の保障を学校教育の本質的な役割として重視し、継承
- 一斉授業か個別学習か、履修主義か修得主義か、デジタルかアナログか、遠隔・オンラインか対面・オフラインかといった「二項対立」の陥穽に陥らず、教育の質の向上のために、発達の段階や学習場面等により、どちらの良さも適切に組み合わせ活かしていく

# 令和の日本型学校教育の構築

## 学び続ける教員を支えるキャリアシステム（将来的なイメージ）

Ⅲ - 21



協議会の協議において、資質の向上に関する指標の策定を行うとともに、指標を踏まえつつ、各種研修、免許状更新講習、履修証明プログラム、教職大学院コースをそれぞれ単位化し、それらの積み上げによって履修証明や専修免許状を授与する取り組みの推進を図り、学び続ける教員の具現化を図る。

※「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」(平成27年12月中央教育審議会答申)より(一部加工)

# 令和4年度 現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業

～ 自律的なオンライン講習のカリキュラムデザインと教えないで学べる学習環境の設計 ～

## ◆ 社会的背景

教員には、学校段階間の接続を見通した常に義務教育9年間全体を俯瞰する視点を持ちつつ指導する力や、教科横断的な視点で学習内容を組み立てる力など、複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づいた総合的な指導力を教職生涯において身に付けることが、より一層期待されている。

また、教育DX(Digital Transformation)は、教員がオンライン技術を活用して、学びのあり方やカリキュラムを革新し、同時に、業務や組織、プロセス、学校文化の変革など、時代の変化に対応した教育ができる人材が求められている。

## ◆ 調査研究事業の内容

### ① 自律的なオンライン講習のカリキュラムデザインと教えないで学べる学習環境の設計

講習の目的は「教えること」ではなく、学習者が「自ら学ぶ」ことを手助けし、学習者に「行動変容」が起こることである。「教えない」講習が主体的な学び手を前提として、よりフレキシブルな学習環境を提供すると共に、本講習の対象者である大人の学習であるアンドロジョーの原則を踏まえるカリキュラムとする。

### ② 教育データの利活用と新たな学習指導の開発

GIGA スクール構想により、児童生徒1人1台端末環境の実現が進む中、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現していくため、教育データの効果的な利活用を促進することが必要である。  
そのために、データサイエンスやこれまでの教育実践の「経験知」の可視化等、教師の経験知と科学的視点のベストミックスした新たな学習指導について考える。

### ③ 学習環境としての教育リソースの整備

教員自身が時代や社会、環境の変化を的確につかみ取り、その時々状況に応じた適切な教育の提供を行うためには、教員が自ら課題を持って、主体的に講座に参加する体制の確立が必要である。  
そのためにも教育実践に関する調査研究や教育資料をデジタルアーカイブ化することにより、教育リソース(デジタル化された教育資料)を縦横に使いこなし、“新たな学びの空間”を創造するための知識やツールを提供する。

## 課題

- 小中連携コーディネータの養成カリキュラムの開発
- 複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づいた総合的な指導力の構造化
- 教員不足へのアクションとしての有用性の検証

## ◆ 本事業の目的

教員自身が時代や社会、環境の変化を的確につかみ取り、その時々状況に応じた適切な教育の提供を行うために、教員が自ら課題を持って、主体的に講習に参加し、複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づいた総合的な指導力を向上させることができるカリキュラムの開発を目指す。

具体的には、受講者のニーズに応じて柔軟に講習内容を組み合わせたり、自律的に学ぶことができるオンライン講習を取り入れたりするなど、教員が主体的に学ぶことができる学習環境を考える。

本事業では、教員の資質能力向上を目指す教育データの利活用と新たな学習指導を研究し、自律的なオンライン講習のカリキュラムデザインと教えないで学べる新たな学習環境を開発する。

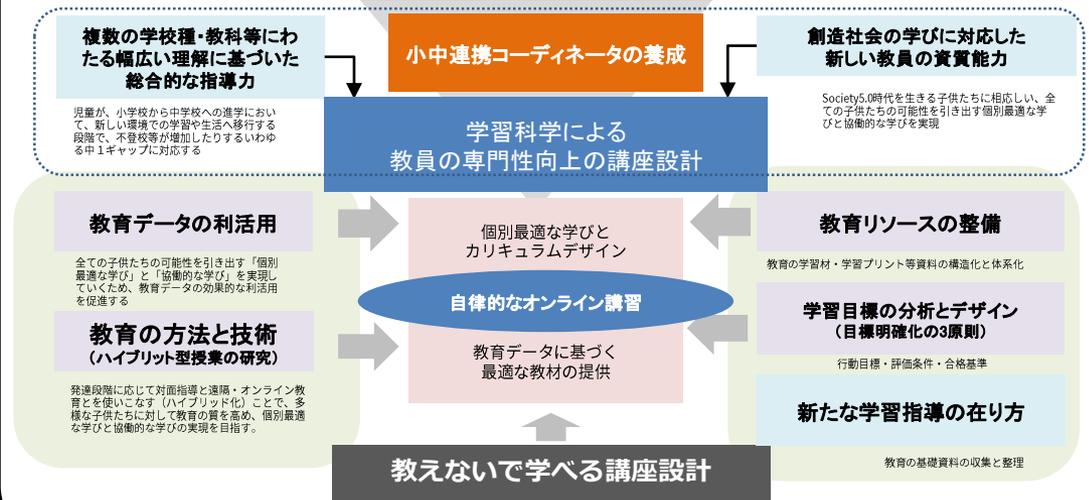
## 現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業

### ◆ 具体的な取り組み方法

- ・ 自律的なオンライン講習のカリキュラムデザインと教えないで学べる新たな学習環境の設計
- ・ 教育データの利活用と新たな学習指導の開発
- ・ 学習環境としての教育リソースの整備

## 評価検討委員会

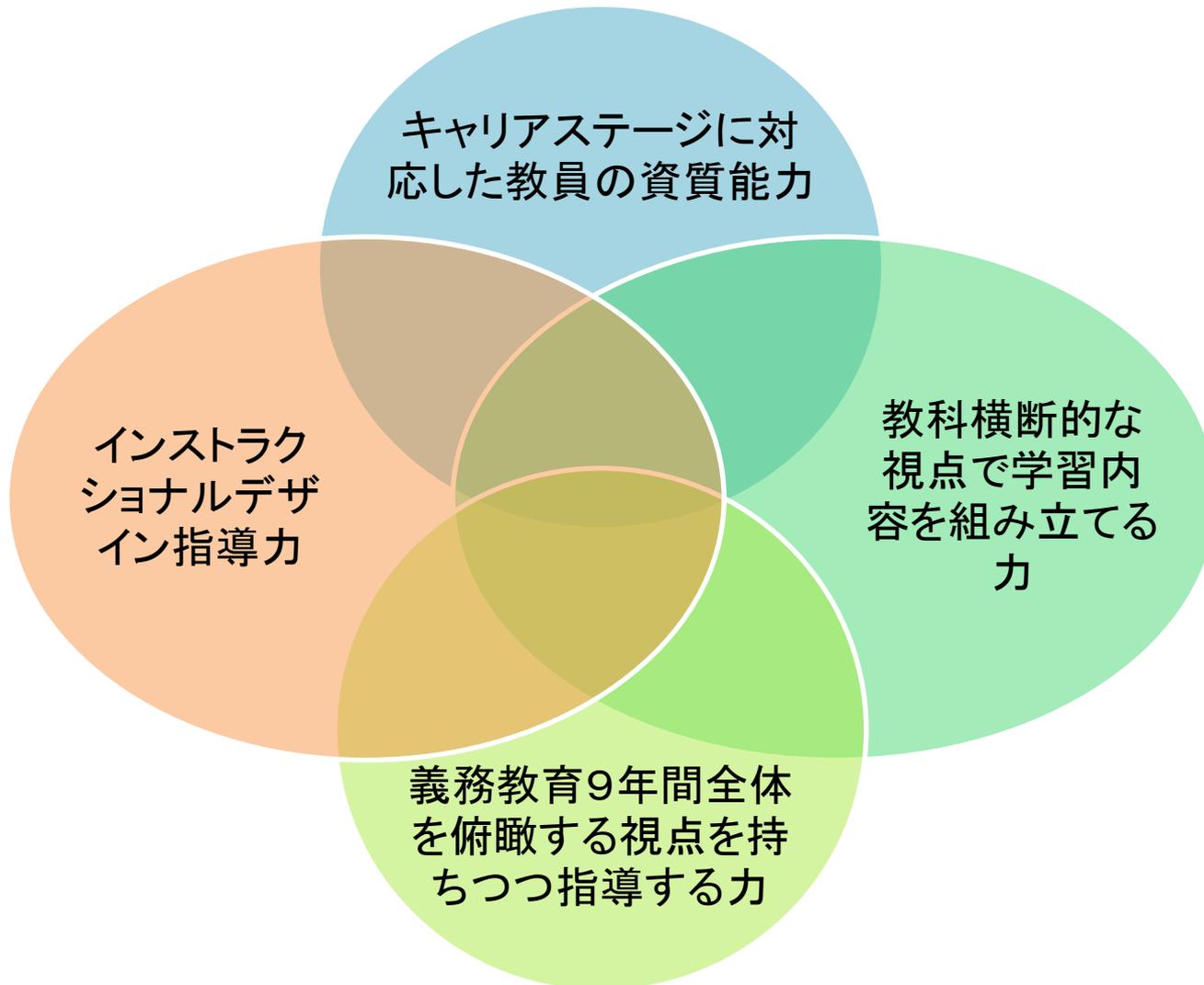
## 自律的なオンライン講習のカリキュラムデザインと教えないで学べる学習環境の設計



(例) 講義形式からの脱却・行動変容をモニタリング・成長する小中連携コーディネータの学びに誘う講座

# 小中連携コーディネータに求められる資質能力

複数の学校種・教科等にわたる幅広い理解に基づいた総合的な指導力を持った人材



# 小中連携コーディネータに求められる資質能力 (1)

## キャリアステージに対応した教員の資質能力

参考: 岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標 改訂版【中学校】における【基礎形成期】並びに【資質向上期】(令和3年10月)

学習指導	授業構想
	授業実践
	評価改善
生徒指導	生徒理解
	生徒指導
	キャリア教育
経営・分掌	学年・学校経営
	連携・協働
	危機管理
特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応	
ICTや情報・教育データの利活用	

改訂版

清流の国<sup>ぎふ</sup> 岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標 【中学校】

～ぎふの人間像～

高い志とグローバルな視野をもって夢に挑戦し、家庭・地域・職場で豊かな人間関係を築き、地域社会の一員として考え行動できる「地域社会人」

～岐阜県が求める教師像～

- ◎ 幅広い教養と高い専門性をもち、常に学び続ける教師 (学び続ける向上心)
- ◎ 誰一人悲しい思いをさせない、愛情と使命感あふれる教師 (高い倫理観・使命感)
- ◎ 指導方法を工夫し、児童生徒に確かな学力をつける教師 (確かな専門性)

	スタートライン	【基礎形成期】	【資質向上期】	【資質充実期】	【資質貢献期】
学習指導	授業構想	意欲的に授業実践や学習経営に取り組み、教職の基礎を固める。	学校の中核として実践を積み上げ、専門性を高め、推進力を発揮する。	活力ある学校運営を企画・調整・実践し、リーダーシップを発揮する。	学校管理や他の教員等への指導を行う。広い視野で組織的な運営を行う。
	授業実践	学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる。	小・中学校9年間の系統性、生徒の実態を踏まえて指導計画を作成することができる。	学校の課題、学習指導要領の改訂等を踏まえた指導計画を作成し、全校体制で取り組めるよう働きかけることができる。	学校の課題、学習指導要領の改訂等を踏まえた指導計画を作成され、全校体制で取り組めるよう働きかけることができる。
	評価改善	教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる。	教科の専門性を踏まえて、生徒一人一人に確実な基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる。	授業モデルを示すなど、授業実践のリーダーとして指導方法を積極的に他の教員等に広めていくことができる。	学校の課題を踏まえ、学習向上に向けた実践を他の教員等に伝えたり、適切に助言を行ったりすることができる。
生徒指導	生徒理解	進んで声をかけ、共に活動をする中で、生徒一人一人のよさや課題を的確かつ具体的に把握することができる。	生徒の行動とその背景にある思いを把握し、共感的に理解したうえで、適切な指導を行うことができる。	様々な情報に基づいて生徒一人一人を多面的・多角的に捉え、適切な指導を行うことができる。	継続的に生徒の行動を見届け、生徒の成長について助言を行ったりすることができる。
	生徒指導	問題行動等を早期に発見し、学年職員等に相談して迅速に対応することができる。	関係職員と共に生徒の状況について、適切な指導方法を判断して対応することができる。	関係職員や保護者等と協力し、生徒の状況を共有し、組織を生かして指導方法を判断し迅速に対応することができる。	生徒に対する指導を組織的・計画的に実践できるような体制を整え、問題の未然防止の取組を実践することができる。
	キャリア教育	教育相談、生徒指導、キャリア教育に関する基本的な事項や指導方法等について理解している。	生徒一人一人が目標をもち、計画的に取り組むことができるよう指導を行うことができる。	生徒が見過しをもちたり振り回したりして学ぶよう指導を行うなど、教職員全体を通じてキャリア教育を推進することができる。	キャリア教育の視点を含めた生活指導の視点に留意するよう、助言を行ったりすることができる。
経営・分掌	学年・学校経営	担当する校務の役割を理解し、責任をもって行うことができる。	学校全体を発達し、課題を改善しながら校務を行うことができる。	校務全般に關して理解を深め、組織を生かしながら校務を推進することができる。	学校の教育目標実践に向けて、校内組織間の連絡・調整を推進することができる。
	連携・協働	教員の職務内容や学校組織等について理解している。危機管理の重要性や組織マネジメントに関する基本的な事項等について理解している。	他の教員等のよさに学び、相談・協力することができる。同時に、保護者との連絡を密にし、望ましい関係を築くことができる。	組織の一員として、他の教員等と声をかけ合いながら、協力して取り組むことができる。	他の教員等の現状状況を把握し、連絡・調整をしながら、対応することができる。
	危機管理	生徒の安全や個人情報等の重要性を理解し、「報告・連絡・相談」を大切にしながら適切に対応することができる。	事故等の発生時や未然防止について、場面に即して迅速に行動することができる。	関係機関や保護者・地域等と連携し、事故等の未然防止や発生時における迅速な対応を行うことができる。	学校を取り巻く環境について家庭・地域・関係機関との協力体制を整え、ともに、適切に対応することができる。
特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応	特別な配慮や支援を必要とする生徒について、合理的な配慮や組織的な対応の必要性を理解している。	一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し、ユニバーサルデザインの授業づくりに生かすことができる。	多様性を尊重し共に成長する集団づくりや、一人一人の個性を生かした学びの実践のために工夫・改善を行うことができる。	全般的な支援の充実に向け、職員との連携による指導の体制を整え、組織的・継続的な支援のために主体的に働きかけることができる。	
ICTや情報・教育データの利活用	ICTを活用した学習指導や校務の推進及び生徒に情報活用能力を育成するための授業実践等を行うことができる。	ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び生徒の学習や生活の改善を図るため、教育データを適切に活用することができる。	自らのICT活用指導力を高め、これまでの経験を含めた活用方法を提案したり、実践し活用することができる。	学校のICTや情報・教育データの活用を的確に捉え、組織的な課題を明確にし、解決に向けて働きかけることができる。	

<p>【基礎形成期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の得意な内容、領域を見付けられる。</li> </ul>	<p>【資質向上期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が得意な内容、領域を磨いている。他の人が持っているものよさに気付く、取り入れてみる。</li> </ul>	<p>【資質充実期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の知恵や経験が他の人に有用であることに気付く。</li> <li>・異なる見方や価値観を受け入れ、面白いと感じる。</li> </ul>
<p>【資質貢献期】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若手や同僚に共感する。</li> <li>・自分の知恵や経験を活かす場がある。</li> </ul>		

教員が成長し続けるために大切な姿

# 小中連携コーディネータに求められる資質能力（1）

## 岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標【中学校・資質向上期】

参考：岐阜県「教員のキャリアステージ」における資質の向上に関する指標 改訂版【中学校】における【基礎形成期】並びに【資質向上期】（令和3年10月）

資質・能力カテゴリー		小中連携コーディネータに求められる資質能力
学習指導	授業構想	(1)学習指導要領の目標や内容、評価の観点等を踏まえ、ねらいを明確にした指導計画を作成することができる。 (2)小・中学校9年間の系統性、生徒の実態を踏まえて指導計画を作成することができる。
	授業実践	(1)教科の指導内容を適切に理解し、ねらいを明確にした授業となるよう指導・援助を行うことができる。 (2)教科の専門性を踏まえて、生徒一人一人に確実に基礎・基本が身に付くよう指導・援助を行うことができる。
	評価改善	(1)評価計画に沿って生徒一人一人の学習状況を把握し、次時や次単元の指導を改善することができる。 (2)適切な授業評価を行い、継続的な授業改善を行うとともに、自己の専門性向上に努めることができる。
生徒指導	生徒理解	(1)進んで声をかけ、共に活動をする中で、生徒一人一人のよさや課題を客観的かつ共感的に把握することができる。 (2)生徒の行動とその背景にある思いを把握し、共感的に理解した上で、個に応じた指導を行うことができる。
	生徒指導	(1)問題行動等を早期に発見し、学年職員等に相談して迅速に対応することができる。 (2)関係職員と共に生徒の状況を共有し、適切な指導方法を判断して対応することができる。
	キャリア教育	(1)生徒一人一人が目標をもち、計画的に取り組むことができるよう指導を行うことができる。 (2)生徒が見通しをもったり振り返ったりして学ぶよう指導を行うなど、教育課程全体を通じてキャリア教育を推進することができる。
経営・分掌	学年・学校経営	(1)担当する校務の役割を理解し、責任をもって行うことができる。 (2)学校全体を見渡し、課題を改善しながら校務を行うことができる。
	連携・協働	(1)他の教員等のよさに学び、相談・協力することができるとともに、保護者との連絡を密にし、望ましい関係を築くことができる。 (2)組織の一員として、他の教員等と声をかけ合いながら、協力して取り組むことができる。
	危機管理	(1)生徒の安全や個人情報の重要性を理解し、「報告・連絡・相談」を大切に適切に行動することができる。 (2)事故等の発生時や未然防止について、場面に応じて迅速に行動することができる。
特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応		(1)一人一人の障がいの特性や教育的ニーズ等を把握し、ユニバーサルデザインの授業づくりに生かすことができる。 (2)多様性を尊重し共に成長する集団づくりや、一人一人の個性を生かした学びの実現のために工夫改善を行うことができる。
ICTや情報・教育データの利活用		(1)授業や校務等にICTを活用でき、生徒の情報モラルを含めた情報活用能力を育成するための授業実践等を行うことができる。 (2)ICTを効果的に活用した授業実践等を行い、校務の効率化及び生徒の学習や生活の改善を図るため、教育データを適切に活用することができる。

# 小中連携コーディネータに求められる資質能力（2）

## インストラクショナルデザイン指導力

- ※ インストラクショナルデザイン指導力: 学習成果のエビデンスに基づく効果的な教育実践を幼児教育に普及できる指導力。
- ※ インストラクショナルデザインとは、「何を(What)できるようにするのか?」を明確にしたうえで、「どうやって(How)できるようにするのか」をルールに基づいて体系的に考えることにより、効果的・効率的・魅力的な教育プログラムを作成するための方法論。

資質・能力カテゴリー		小中連携コーディネータに必要な資質・能力
インストラクショナルデザイン指導力	インストラクショナルデザイン	(1)自分の学びをデザインすることの必要性について説明できる。 (2)インストラクショナルデザインの第1原理の観点から、現実に関与する自分の学びを設計できる。 (3)e-Learningにより学修がどのように支援されているかについて、研修以外の学習支援方法を含んで、事例を挙げながら説明できる。 (4)研修成果の評価をどのように行うか。研修が目指した学習目標に即して計画を具現化でき、研修の評価・改善を計画することができる。 (5)研修の学習目標に沿ったワークショップのデザインをすることができる。
	研修成果の評価	
	ワークショップ	
	教育リソース	(6)全ての子供たちの可能性を引き出す個別最適な学びと共同的な学びの実現のための教育資料のデジタルアーカイブの活用について事例を挙げて説明できる。